

淡路島の蝶の変遷

堀 田 久

私は兄や姉の影響もあって、小学生の頃からよく虫取りをしたものであるが、初めて蝶の標本を作ったのは40年も前の中学2年生の夏のことであった。当時は夏休みの宿題に昆虫標本の作製があり、洲本市安乎町の自宅付近で、毎日のように蝶を追いかけたものである。その時の標本は殆ど無くしてしまったが、クロアゲハの1匹だけは今も完全な姿で残っている。

その年(1942年)の8月16日には、父や兄と先山へ行き、ジャコウアゲハやアオスジアゲハ・カラスアゲハ・ゴマダラチョウなどを採集したが、それまで図鑑で見ただけだったアサギマダラを先山の頂上付近でネットに入れた時の感激は今も忘れることができない。思えばこの時から蝶にとりつかれていたようであり、この年から淡路島の蝶達との付き合いが始まったと言えよう。

その後の数年間は太平洋戦争が次第にはげしくなり、採集は殆ど出来なかったが、1946年からは蝶類だけでなく他の昆虫類についても標本を作るようになった。この40年間には環境の変遷と共に減少して、その姿を殆ど見かけなくなったものもあれば、逆に次第に個体数を増している仲間もある。

ここには特に変遷の著しい蝶類数種を取り上げてみたが、これはあくまでも私の主観であり、場所によってはかなり事情も違っていることと思うので、同好諸賢の観察結果をお知らせいただければ幸いである。

1. モンキアゲハ

この蝶は南方系の種で次第に分布範囲を北へ広げている仲間の代表であるが、淡路島内でも1940年代に比較するとずいぶん個体数が多くなった。私が採集を始めた頃は、安乎町ではごくたまに見られるくらいであったが、今では島内の各地に多く、洲本市安乎町でも6月初旬にはサツキの花に、7月下旬にはオニユリの花に数多く集まり、乱舞する姿も見られる。平地よりも山地に多く、先山あたりではクロアゲハなどよりも個体数が多い。

2. ナガサキアゲハ

本種はよく知られている通り、1951年8月志筑明神のミカン畑で、小学生によって2頭の♀が採集されたのが淡路島における最初の記録である。私が淡路島でこの蝶を初めて手にしたのは、それから7年後の1958年7月27日のことである。それは洲本市安乎町の自宅横のミカン畑へ産卵のため飛来した♀であり、これが淡路島における2回目の採集記録である。

その後同地点で何度も本種を確認しているが、島内の他の地点における採集例も多くなり、分布地域も次第に広がっていった。特に1960年代の後半には毎年発生が見られ、春型もかなり採集されているところから、確実に土着したものと思われるようになった。

現在は島内の各地に多く見られ、特に洲本市の由良や上灘、南淡町の灘などに個体数が多い。しかし、まだ島内全部に土着しているわけではない。洲本市安乎町では年によって差が大きく、成虫・幼虫ともかなりの個体数が見られる年と全く見られない年とがあり、まだ土着はしていないようである。

3. ムラサキシジミ

1950年代には、先山をはじめ洲本市安乎町や中川原町・竹原などでよく見られ、ごく普通の種であったが、私はここ10年余り本種の姿を全く見かけていない。前川和昭氏が先山で最近採集されたということなので、絶滅はしていないが、個体数は極めて少なくなっている。

なお、津名郡や三原郡でも1965年以降の採集記録は見られないようである。

4. ウラギンスジヒョウモン

1950年代には洲本市安乎町の池の堤防で、6月頃本種がかなり見られたが、1960年以降は全く見られなくなった。今までのところ、島内では洲本市安乎町で記録されているだけである。

5. オオウラギンヒョウモン

本種も1950年代には洲本市安乎町でかなりの個体が得られ、当時新潟県の同好者との交換に使用したほどであったが、1960年以降は全く見られなくなった。なお、島内では三原郡賀集で1967年6年に1頭採集されているだけで他に記録はない。

6. ジャノメチョウ

本種は1950年代から洲本市安乎町や津名郡の山地で採集できたが、個体数はあまり多くなかった。最近洲本市安乎町では個体数が多く、7月中～下旬が最盛期である。また、採集例がなかった三原郡内でも、1978年になって緑町の倭文で記録されている。

(1982, 12, 30)

諭鶴羽山でトゲヒゲヒメカミキリを採集

1980年8月14日、南淡町諭鶴羽神社境内でブラックライトを使用してナイターをした所、トゲヒゲヒメカミキリ *Allotraeus rufescens* Pic を1♂1♀採集したので報告する。当夜は濃霧が発生して寒い位であったが、多数の大型のガとヒメハルゼミ2♀♀が飛来して楽しいナイターだった。

本種を同定していただきました田中勇氏に感謝したい。

(田中 稔)